

(様式第10)

島大医総第310-1号  
平成27年10月27日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人島根大学  
学長 服部 泰

島根大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項の規定に基づき、平成26年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
氏 名	国立大学法人島根大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

島根大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1	電話 (0853) 23-2111
----------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1内分泌代謝内科	2腫瘍・血液内科	3消化器内科
6膠原病内科	7呼吸器・化学療法内科	8腎臓内科
診療実績		

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

## (2) 外科

外科	<input checked="" type="radio"/> 有	・ 無
外科と組み合わせた診療科名		
1消化器外科	2肝・胆・胰外科	3小児外科
6呼吸器外科	4乳腺・内分泌外科	5心臓血管外科
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科	<input checked="" type="radio"/> 有	・ 無
歯科と組み合わせた診療科名		
1歯科口腔外科		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1臨床検査科	2病理診断科	3リハビリテーション科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精 神	感 染 症	結 核	療 養	一 般	合 計
30床	床	床	床	570床	600床

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	337人	7人	341.0人	看護補助者	44人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	11人	0人	11人	理学療法士	14人	臨床検査技師	33人
薬剤師	39人	0人	39人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	8人	その他	0人
助産師	19人	1人	19.8人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	612人	28人	631.5人	臨床工学士	13人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	2人	その他の技術員	38人
歯科衛生士	1人	2人	2.5人	歯科技工士	0人	事務職員	183人
管理栄養士	6人	0人	6人	診療放射線技師	30人	その他の職員	29人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	24人	眼科専門医	8人
外科専門医	30人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精神科専門医	9人	放射線科専門医	11人
小児科専門医	21人	脳神経外科専門医	3人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	15人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	10人	救急科専門医	2人
合計			173人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1 日当たり平均入院患者数	503.822人	8.906人	512.728人
1 日当たり平均外来患者数	948.033人	41.193人	989.226人
1 日当たり平均調剤数			857.6剤
必要医師数			110.379人
必要歯科医師数			4.059人
必要薬剤師数			29人
必要(准)看護師数			290人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

#### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
			病床数	心電計	心細動除去装置
集中治療室	577.71m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	14床	○有・無	○有・無
			人工呼吸装置	○有・無	○有・無
			その他の救急蘇生装置	○有・無	ペースメーカー
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	222.55m <sup>2</sup> 0台	病床数	20床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 [共用室の場合] 共用する室名	52m <sup>2</sup>			
化学検査室	523m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学検査装置、免疫分析装置		
細菌検査室	100m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置、質量分析装置		
病理検査室	239m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動包埋装置、自動染色装置		
病理解剖室	57m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感染対策用解剖台、臓器撮影装置		
研究室	14, 142m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 透過電子顕微鏡、質量分析装置		
講義室	1, 858m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	10室	収容定員 1, 446人
図書室	1, 819m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数 132, 000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	85.5%	逆紹介率	59.4%
A : 紹介患者の数			9,528人
B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			7,551人
C : 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,350人
D : 初診の患者の数			12,709人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	1人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価 C型慢性肝炎(インターフェロン・リバビリン併用療法による効果が見込まれるものに限る。)	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の難治性患者に対する治療。			
医療技術名	反復経頭蓋磁気刺激による神経変性疾患の治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
パーキンソン病、多系統萎縮症などの難治性神経変性疾患患者を対象として、非侵襲的な脳刺激治療である反復経頭蓋磁気刺激を1週間行い、運動機能回復効果を確認している。			
医療技術名	安静時機能的MRIによる脳機能障害の補助診断	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
通常のMRI検査に加え安静時機能的MRIを計測することで、非侵襲的かつ簡便に脳内機能的結合度を測定し、認知症等のさまざまな中枢性神経疾患の脳機能障害の客観的指標を作成し、診断に利用している。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍(悪性黒色腫以外)のセンチネルリンパ節生検結果に基づく治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対してセンチネルリンパ節生検を行い、その結果に基づいて治療計画を実施することで、リンパ行性の転移を早期に検出でき、予後の改善につながる。			
医療技術名	リケッチャ感染症の遺伝子診断	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
日本紅斑熱やツツガムシ病が疑われる患者に対して、検体からリケッチャをPCR法またはLAMP法にて検出し、診断の補助とする。			
医療技術名	内視鏡手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
内視鏡手術支援ロボットを用いることにより脾液瘻、腹腔内膿瘍、縫合不全、狭窄・通過障害などの局所合併症のリスクを腹腔鏡下胃切除よりも低くして、より安全で正確な、体の負担が少ない治療となる。			
医療技術名	関節鏡視下膝靭帯再建術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
関節鏡(内視鏡)を用いた最小侵襲手術かつ、無輸血手術、無駆血手術を行い、早期リハビリテーション、早期社会復帰を可能にしている。			
医療技術名	人工股関節全置換術	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要			
クリーンルームで超清潔下に人工股関節置換術を行っている。			
医療技術名	脊髄誘発電位測定	取扱患者数	49人
当該医療技術の概要			
手術中に脊髄誘発電位測定を行い、安全かつ有効な手術を可能にしている。			
医療技術名	顕微鏡視下手術	取扱患者数	66人
当該医療技術の概要			
脊椎外科・手の外科や腫瘍再建外科において、顕微鏡を用いた神経の剥離・微小血管・神経の縫合や組織移植を可能にしている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
限局性腎腫瘍に対して手術支援ロボットであるダ・ヴィンチを用いて腎部分切除を行った。腎温存の観点からすると、腎部分切除術の最大の難関である腎実質の縫合も容易に施行でき、温阻血時間の短縮が可能であった。手術中の出血量も少なく、安全性と利便性に富む術式であることを確認した。			

医療技術名	歯周外科治療におけるエムドゲイングル <sup>R</sup> を用いたバイオ・リジェネレーション法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
歯周病により失われた歯周組織(セメント質、歯根膜、歯槽骨)を取り戻すための処置として、感染した歯周組織を除去し治癒を促す歯周外科治療が一般的に行われる。エムドゲイングル <sup>R</sup> にはエナメルマトリックスタンパク質が含まれており、本タンパク質は歯周組織再生環境の提供に役立つセメント芽細胞様細胞を誘導し歯周組織の再生を促進する効果がある。歯周外科処置に併せてエムドゲイングル <sup>R</sup> を用いることで歯周組織の再生を促す手技である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	37人	・膿疱性乾癥	4人
・多発性硬化症	30人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・重症筋無力症	31人	・原発性胆汁性肝硬変	7人
・全身性エリテマトーデス	95人	・重症急性膵炎	2人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壞死症	34人
・再生不良性貧血	22人	・混合性結合組織病	24人
・サルコイドーシス	41人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	14人	・特発性間質性肺炎	10人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	88人	・網膜色素変性症	13人
・特発性血小板減少性紫斑病	29人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	25人	・肺動脈性肺高血圧症	0人
・潰瘍性大腸炎	93人	・神経線維腫症	3人
・大動脈炎症候群	11人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	6人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	10人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	16人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	63人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	5人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	83人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
		・慢性炎症性脱髓性多発神経炎	7人
・アミロイドーシス	6人	・肥大型心筋症	3人
・後縫靭帯骨化症	52人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	1人	・ミトコンドリア病	5人
・モヤモヤ病(ウィルス動脈輪閉塞症)	12人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・ウェグナー肉芽腫症	5人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	14人	・黄色靭帯骨化症	3人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	9人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	64人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人		

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料	・救命救急入院料3
・臨床研修病院入院診療加算	・特定集中治療室管理料2
・救急医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・緩和ケア病棟入院料
・診療録管理体制加算1	
・急性期看護補助体制加算	
・看護補助加算	
・看護職員夜間配置加算	
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算1	
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・退院調整加算	
・救急搬送患者地域連携紹介加算	

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

No.1

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・時間内歩行試験
・高度難聴指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料3	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来緩和ケア管理料	・神経学的検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・補聴器適合検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・院内トリアージ実施料	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来放射線照射診療料	・内服・点滴誘発試験
・ニコチン依存症管理料	・センチネルリンパ節生検(併用)、(単独)
・開放型病院共同指導料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・地域連携診療計画管理料	・画像診断管理加算1
・がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携管理料	・遠隔画像診断
・認知症専門診断管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料1	・大腸CT撮影加算
・医療機器安全管理料2	・心臓MRI撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・持続血糖測定器加算	・外来化学療法加算1
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・無菌製剤処理料
・検体検査管理加算(IV)	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・植込型心電図検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

No.2

施設基準の種類	施設基準の種類
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・がん患者リハビリテーション料	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・認知療法・認知行動療法1	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・補助人工心臓
・医療保護入院等診療料	・経皮的大動脈遮断術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・ダメージコントロール手術
・透析液水質確保加算1	・体外衝撃波胆石破碎術
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下肝切除術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・体外衝撃波脾石破碎術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・縫内障手術(縫内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・同種死体腎移植術
・網膜再建術	・生体腎移植術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・膀胱水圧拡張術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、2	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(医科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・経皮的冠動脈形成術	・腹腔鏡下子宫悪性腫瘍手術(子宫体がんに限る。)
・経皮的冠動脈ステント留置術	・輸血管理料Ⅰ
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・輸血適正使用加算
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・貯血式自己血輸血管理体制加算

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

No.3

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・人工括約筋を用いた尿失禁手術	・
・マイクロ波子宮内膜アブレーション	・
・光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	70回／年		
剖検の状況	剖検症例数	34例	剖検率 7.70%

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	杉本 利嗣	内分泌代謝内科	820,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
消化管による骨代謝制御機構の検討—インクレチンシグナルの骨形成増強作用の解明—	杉本 利嗣	内分泌代謝内科	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
2型糖尿病における骨質劣化および骨折リスクに関する研究	山口 徹	内分泌代謝内科	1,820,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
酸化ストレス・Wnt/ $\beta$ -catenin経路による2型糖尿病の骨代謝異常の解明	山本 昌弘	内分泌代謝内科	910,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
骨・脂肪・筋肉の相互関連性におけるオステオカルシンの役割を解明する	金沢 一平	内分泌代謝内科	1,950,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の新規難治性病型に対する治療研究	鈴宮 淳司	腫瘍・血液内科	500,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究委託費
白血病髓外浸潤におけるROCKの機能解析と新規標的戦略	大西 千恵	腫瘍・血液内科	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新生児期から高年齢まで対応した、好酸球性消化管疾患および稀少消化管持続炎症症候群の診断治療指針、検査治療法開発に関する研究	木下 芳一	消化器内科	2,500,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
集約的オミックス解析による難病の原因究明と疾患別遺伝子診断ネットワークの構築	木下 芳一	消化器内科	3,500,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究委託費
好酸球性食道炎の病態に及ぼす胃酸の影響についての研究	木下 芳一	消化器内科	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
制御性B細胞の誘導・活性化機構の分子メカニズムの解明と腸管炎症制御への応用	石原 俊治	消化器内科	2,080,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Notchシグナル再活性化によるバレット食道の発癌・進展機序の解明	石村 典久	消化器内科	1,950,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
自然リンパ球を標的とした好酸球性食道炎の病態機序の解明	大嶋 直樹	消化器内科	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測)のための非侵襲的病態診断アルゴリズムの確立	佐藤 秀一	肝臓内科	24,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究委託費
精神的価値が成長する感性イノベーション拠点	山口 修平	神経内科	3,900,000	(補委) 独立行政法人 科学技術振興機構
動機づけシステムの脳内神経基盤の解明とアパシーの新規治療	山口 修平	神経内科	1,170,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
複合的MRI研究によるアパシーの神経機序解明	小野田 慶一	神経内科	1,950,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
肺癌実験動物モデルを用いたPK/PD標準化研究	磯部 威	呼吸器・化学療法内科	400,000	(補委) 独立行政法人 国立がん研究センター
生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定	森田 栄伸	皮膚科	18,100,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	森田 栄伸	皮膚科	1,000,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器の実用化促進のための評価技術手法の戦略的開発	森田 栄伸	皮膚科	400,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究委託費
牛肉アレルギー患者で持続的に高発現される好塩基球CD203cの活性化機序の解明	千賀 祐子	皮膚科	2,340,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アトピー性皮膚炎のバリア機能破綻に関わるタンパク質群の網羅的な同定・相対定量解析	高橋 仁	皮膚科	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
$\omega$ -5グリアジン欠失小麦を用いた低アレルゲン化小麦の開発	高橋 仁	皮膚科	1,900,000	(補委) 公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団
新生児マスククリーニングのコホート体制、支援体制、および精度向上に関する研究	山口 清次	小児科	8,000,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するビルビン酸ナトリウム治療法の開発研究—試薬からの希少疾病治療薬開発の試み—	山口 清次	小児科	500,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の診断・治療に関する研究: 新規診断・治療に関する提案と検証	山口 清次	小児科	1,500,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立に関する研究	山口 清次	小児科	200,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金

(小計28)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新しい先天代謝異常症スクリーニング時代に適応した治療ガイドラインの作成および生涯にわたる診療体制の確立に向けた調査研究	山口 清次	小児科	600,000	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
HSD10病の発症形態と患者数の把握、診断基準の作成に関する研究	山口 清次	小児科	250,000	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
乳幼児突然死症候群(SIDS)および乳幼児突発性危急事態(ALTE)の病態解明等と死亡数減少のための研究	山口 清次	小児科	400,000	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
新生児タンデムマスクリーニング対象疾患の診療ガイドライン改訂、診療の質を高めるための研究	山口 清次	小児科	1,500,000	厚生労働省 厚生労働科学研究委託費
培養細胞とタンデムマスクリーニングによるβ酸化障害評価法の開発	山口 清次	小児科	1,170,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
小児白血病の中脳神経浸潤に対する分子基盤解明と新規治療法開発	福田 誠司	小児科	2,080,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
葉剤性カルニチン欠乏症の臨床像と病態に関する研究	小林 弘典	小児科	1,690,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪酸代謝異常症に対する新しい治療薬の研究と比較	高橋 知男	小児科	2,080,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
本当に重症型グルタル酸血症2型にペザフィブ ラートは無効か?	山田 健治	小児科	1,560,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ITD-F1t3陽性造血器腫瘍におけるp21WAF1の機能解析と新たな治療戦略	安部 真理子	小児科	1,430,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
胆汁耐性ヘリコバクター胆道感染の診断・治療システムの構築と胆道発癌予防法の確立	田島 義証	肝・胆・脾外科	1,170,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
切除可能進行胃癌に対する網囊切除の意義に関する研究	平原 典幸	消化器外科	500,000	厚生労働省 厚生労働科学研究委託費
膵癌における転写制御因子NAC1とその下流遺伝子群の治療標的としての基盤研究	西 健	消化器外科	1,950,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
低体温導入及び復温に伴う心筋蛋白質リン酸化(脱リン酸)の網羅的プロテオミクス解析	織田 祐二	心臓血管外科	3,900,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
遺伝的高血圧モデルラットの食塩感受性は腎依存性か:腎交換移植による検討	今井 健介	心臓血管外科	2,600,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
軟骨前駆細胞を用いた変形性関節症治療法の開発	内尾 祐司	整形外科	1,690,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
膝関節不安定性検出器の開発	内尾 祐司	整形外科	2,000,000	公益財団法人 しまね産業振興財團
脳腫瘍幹細胞とニッチにおけるインドールアミンジオキシゲナーゼの阻害効果	宮崎 健史	脳神経外科	1,820,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
自閉症スペクトラム障害に対する抑肝散の有用性の科学的知見の創出に関する研究	宮岡 剛	精神科神経科	4,940,000	厚生労働省 厚生労働科学研究委託費
アカシジアの病態解明に関する周期性四肢運動の運動形態分類別の電気生理学的研究	堀口 淳	精神科神経科	1,820,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
活性化ヒトグリア細胞による神経毒性の研究	橋岡 稔征	精神科神経科	1,560,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
統合失調症発症予防を目指した簡便かつ非侵襲的なスクリーニングシステムの開発	和氣 玲	精神科神経科	1,560,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
統合失調症に対する抑肝散の有効性と安全性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験	堀口 淳	精神科神経科	11,400,000	公益財団法人 日本ワックスマン財団
子宮内膜症幹細胞の探索と分子標的治療に向けた基礎的研究	京 哲	産科婦人科	1,300,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
難治性卵巣がんの新規増幅遺伝子NAC1を標的とした治療法の開発	中山 健太郎	産科婦人科	1,560,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
GnRHニューロンに対する中枢性制御機構の解明	金崎 春彦	産科婦人科	2,080,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
生殖制御ホルモンの中枢性制御機構の解明	折出 亜希	産科婦人科	1,560,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
改良型組換えアデノウイルスを用いた簡便な子宮頸癌早期診断システムの開発	京 哲	産科婦人科	1,430,000	独立行政法人 科学技術振興機構
健やかに産み育てられる環境づくりに向けた胎児出生前診断法の研究	京 哲	産科婦人科	2,600,000	浜田市
安心して産み育てることができるまちづくりに関する研究	京 哲	産科婦人科	2,600,000	益田地区広域市町村圏事務組合
ゲノム編集技術を用いたSOX2発現制御機構の解明	飯笛 久	耳鼻咽喉科	1,950,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Toll様受容体を介したアレルギー性鼻炎の制御	青井 典明	耳鼻咽喉科	1,690,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
モデル動物を用いたスギ花粉症治療薬の有効性・安全性の評価	川内 秀之	耳鼻咽喉科	3,000,000	農林水産省 農林水産技術会議

(小計33)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規脂質酸化マーカーを用いた光照射由来一重項酸素の生体内動態とルテイン効果の検証	大平 明弘	眼科	650,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
黄斑機能に対する黄斑色素の臨床及び基礎的検討	小山 泰良	眼科	1,690,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
眼圧下降薬に対する薬剤応答バイオマーカー遺伝子の網羅的探索	谷戸 正樹	眼科	650,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
実験的網脈絡膜新生血管に対する生体防御因子の抑制効果	高井 保幸	眼科	1,690,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
過酸化水素による内因性ペルオキシダーゼ分解を介する放射線効果増強の組織学的検討	猪俣 泰典	放射線治療科	1,170,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
がん疼痛の鎮痛法によって予後は変わるか	齊藤 洋司	麻酔科	1,170,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄レベルでのκオピオイドの鎮痺と鎮痛の役割を解明する	今町 憲貴	麻酔科	1,820,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
プロテオーム解析による自己完結型組織再生材の修復因子の解明	関根 浄治	歯科口腔外科	2,730,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
おどり遺伝子による癌の血管新生抑制を標的とした純国産型遺伝子治療法の開発	石橋 浩晃	歯科口腔外科	4,550,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
おどり遺伝子を用いた変形性関節症への新規遺伝子治療法の応用	石橋 浩晃	歯科口腔外科	1,040,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
頸骨骨膜細胞と骨伝導能を有する新規生体吸収性足場を用いた頸骨再生療法の開発	管野 貴浩	歯科口腔外科	2,470,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ナノ粒子とアミロイド親和・抑制物質によるアルツハイマー病早期診断・治療法開発研究	長井 篤	臨床検査科	2,080,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
尿毒素物質による異化亢進機序の解明と治療への応用	矢野 彰三	臨床検査科	1,430,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
インスリン抵抗性惹起因子としての尿毒素とその機序に関する研究	矢野 彰三	臨床検査科	1,000,000	補委 公益社団法人 日本透析医会
乳癌におけるNAC-1タンパク発現と、臨床病理学的因子との相関	丸山 理留敬	病理診断科	2,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
G-CSFによる造血幹細胞の末梢血への動員効率に関する遺伝子多型の解明	三島 清司	検査部	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
低フォスマターゼ症合む骨形成不全症に対する臍帯由来間葉系細胞の非臨床試験	竹谷 健	輸血部	2,200,000	補委 厚生労働省 厚生労働科学研究委託費
NUP98-HOX融合遺伝子と協調する遺伝子変異との白血病発症メカニズムの解析	竹谷 健	輸血部	1,560,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
動物モデルを用いた臍帯由来間葉系幹細胞による新規再生・免疫抑制療法の開発	竹谷 健	輸血部	1,755,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
救急患者搬送時の病院前救護におけるハンズフリー「音声認識記録システム」実用化の研究	仁科 雅良	救命救急センター	1,000,000	補委 公益財団法人 ちゅうごく産業創造センター
腸管上皮の再生および炎症性発癌の過程におけるLgr5陽性上皮幹細胞の機能解明	結城 崇史	光学医療診療部	650,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
がん罹患・診療・死亡情報の収集・解析・活用について	鈴宮 淳司	腫瘍センター	9,440,712	補委 島根県
電磁環境からの医療機器の安全安心な使用環境の確立と医療効率向上に関する研究	花田 英輔	医療情報部	4,940,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ロバストパラメータ設計における技術方法論の開発と大規模コンピュータ実験への応用	河村 敏彦	医療情報部	832,728	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
感染防止対策加算算定病院の感染対策の整備状況および地域連携に関する実態調査	西村 信弘	薬剤部	1,820,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
サリドマイド併用によるヒト前立腺癌PC3細胞のドセタキセル感受性の増強	玉木 宏樹	薬剤部	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ピペラシン/タゾバクタム配合剤の高齢肺炎患者に対する適正投与法確立に関する研究	石原 慎之	薬剤部	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ジヒドロ葉酸還元酵素遺伝子における一塩基変異多型とその活性との関連	原 ゆかり	薬剤部	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
初代培養ラット肝細胞におけるニコチンアミドの作用メカニズム	中村 健志	薬剤部	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
				補委
				(小計29)
				合計90
			187,252,440	

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Sugimoto T	Internal Medicine 1, Faculty of Medicine, Shimane University	Once-weekly teriparatide administration for 24 weeks in postmenopausal women with osteoporosis: reply to T. Kawada.	Osteoporos Int. 2014 Sep;25(9):2323-4.
2	Yamauchi M	Internal Medicine 1, Faculty of Medicine, Shimane University	Increased low-density lipoprotein cholesterol level is associated with non-vertebral fractures in postmenopausal women.	Endocrine. 2015 Feb;48(1):279-86.
3	Kanazawa I	Department of Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	DPP-4 inhibitors improve liver dysfunction in type 2 diabetes mellitus.	Med Sci Monit. 2014 Sep 17;20:1662-7.
4	Kanazawa I	Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Pioglitazone increases serum DPP-4 level in type 2 diabetes mellitus.	J Diabetes Metab 2014 Aug, 5(8):416.
5	Morita M	Department of Internal Medicine 1.	Close relationship between serum hyaluronan levels and vascular function in patients with type 2 diabetes.	Biomarkers. 2014 Sep;19(6):493-7.
6	Tanaka S	Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Effects of uremic toxin p-cresol on proliferation, apoptosis, differentiation, and glucose uptake in 3T3-L1 cells.	Artif Organs. 2014 Jul;38(7):566-71.
7	Notsu M	Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Advanced glycation end product 3 (AGE3) suppresses the mineralization of mouse stromal ST2 cells and human mesenchymal stem cells by increasing TGF- $\beta$ expression and secretion.	Endocrinology. 2014 Jul;155(7):2402-10.
8	Tanaka K	Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Active vitamin D possesses beneficial effects on the interaction between muscle and bone.	Biochem Biophys Res Commun. 2014 Jul 18;450(1):482-7.
9	Tanaka K	Department of Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Involvement of the osteoinductive factors, Tmem119 and BMP-2, and the ER stress response PERK-eIF2 $\alpha$ -ATF4 pathway in the commitment of myoblastic into osteoblastic cells.	Calcif Tissue Int. 2014 Apr;94(4):454-64.
10	Sugimoto T	Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Three-year denosumab treatment in postmenopausal Japanese women and men with osteoporosis: results from a 1-year open-label extension of the Denosumab Fracture Intervention Randomized Placebo Controlled Trial (DIRECT).	Osteoporos Int. 2015 Feb;26(2):765-74.
11	Onishi C	Department of Oncology/Hematology, Shimane University School of Medicine	Internal tandem duplication mutations in FLT3 gene augment chemotaxis to Cxcl12 protein by blocking the down-regulation of the Rho-associated kinase via the Cxcl12/Cxcr4 signaling axis.	J Biol Chem. 2014 Nov 7;289(45):31053-65.
12	Kinoshita Y	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Clinical characteristics and effectiveness of lansoprazole in Japanese patients with gastroesophageal reflux disease and dyspepsia.	J Gastroenterol. 2014 Apr;49(4):628-37.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
13	Fukazawa K	Second Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Effects of mosapride on esophageal motor activity and esophagogastric junction compliance in healthy volunteers.	J Gastroenterol. 2014 Sep;49(9):1307-13.
14	Fukuba N	Department of Internal Medicine II, Shimane University School of Medicine	Prevalence of irritable bowel syndrome-like symptoms in ulcerative colitis patients with clinical and endoscopic evidence of remission: prospective multicenter study.	Scand J Gastroenterol. 2014 Jun;49(6):674-80.
15	Morito Y	Second Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Association between sleep disturbances and abdominal symptoms.	Intern Med. 2014;53(19):2179-83.
16	Furuta K	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Intra-gastric pH following single oral administrations of rabeprazole and esomeprazole: double-blind cross-over comparison.	J Clin Biochem Nutr. 2014 Nov;55(3):178-83.
17	Aimi M	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University	Effects of omeprazole on sleep disturbance: randomized multicenter double-blind placebo-controlled trial.	Clin Transl Gastroenterol. 2014 Jun 19;5:e57.
18	Kinoshita Y	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University, School of Medicine	Reply to the letter by E. Savarino et al. regarding "The placebo effect is a relevant factor in evaluating effectiveness of therapies in functional gastrointestinal disorders".	J Gastroenterol. 2014 Sep;49(9):1364-5.
19	Shimura S	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Reliability of symptoms and endoscopic findings for diagnosis of esophageal eosinophilia in a Japanese population.	Digestion. 2014;90(1):49-57.
20	Ishimura N	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Pathophysiology of Barrett's esophagus-associated neoplasia: circumferential spatial predilection.	Digestion. 2014;89(4):291-8.
21	Ansary MM	Department of Internal Medicine II, School of Medicine, Shimane University	Apoptotic cells ameliorate chronic intestinal inflammation by enhancing regulatory B-cell function.	Inflamm Bowel Dis. 2014 Dec;20(12):2308-20.
22	Kawashima K	Department of Internal Medicine II, Shimane University School of Medicine	Therapeutic efficacy of pH-dependent release formulation of mesalazine on active ulcerative colitis resistant to time-dependent release formulation: analysis of fecal calprotectin concentration.	Biomed Res Int. 2014;2014:342751.
23	Fukuba N	Department of Internal Medicine II, Shimane University School of Medicine	Gastric mixed adenoneuroendocrine carcinoma with a good prognosis.	Intern Med. 2014;53(22):2585-8.
24	Fukuba N	Department of Internal Medicine II, Shimane University School of Medicine	Carbon dioxide enterography: a useful method for double-balloon enteroscopy-assisted ERCP.	Endoscopy. 46: E587-E588, 2014
25	Ishimura N	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Clinical features of eosinophilic esophagitis: differences between Asian and Western populations.	J Gastroenterol Hepatol. 2015 Mar;30 Suppl 1:71-7.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
26	Uno G	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Simplified classification of capillary pattern in Barrett esophagus using magnifying endoscopy with narrow band imaging: implications for malignant potential and interobserver agreement.	Medicine(Baltimore). 2015 Jan;94(3):e405.
27	Hiroaki Oguro	Department of Neurology, Faculty of Medicine, Shimane University	Efficacy of Pramipexole for Treatment of Apathy in Parkinson's Disease	International Journal of Clinical Medicine, 2014, 5, 885-889
28	Onoda K	Department of Neurology, Shimane University	Revision of the Cognitive Assessment for Dementia, iPad version (CADi2).	PLoS One. 2014 Oct 13;9(10):e109931.
29	Ishihara M	Department of Neurology, Faculty of Medicine, Shimane University	Primary brain abscess caused by Nocardia otitidiscavarum.	Intern Med. 2014;53(17):2007-12. Epub 2014 Sep 1.
30	Oguro H	Department of Neurology, Faculty of Medicine, Shimane University	Randomized Trial of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation for Apathy and Depression in Parkinson's Disease	J Neurol Neurophysiol 2014, 5:6
31	Inagaki K	Department of Neurology, Faculty of Medicine, Shimane University	An fMRI study of unconscious emotional processing in cerebellum	Journal of Psychophysiology, 94:247, 2014
32	Toyoda G	Department of Neurology, Faculty of Medicine, Shimane University	Association of mild kidney dysfunction with silent brain lesions in neurologically normal subjects.	Cerebrovasc Dis Extra. 2015 Feb 27;5(1):22-7.
33	Kondo M	Department of Rheumatology and Department of Neurology, Faculty of Medicine, Shimane University	A case of overlap syndrome successfully treated with tocilizumab: a hopeful treatment strategy for refractory dermatomyositis?	Rheumatology(Oxford). 2014 Oct;53(10):1907-8.
34	Okimoto T	Department of Internal Medicine, Division of Medical Oncology and Respiratory Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Immunohistochemical comparison of biomarker expression in biopsy and surgical specimens of non-small cell lung cancer.	Anticancer Res. 2014 Jun;34(6):2755-61.
35	Okimoto T	Division of Medical Oncology and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Solitary fibrous tumor with rapid progression after 16 years' follow up.	Intern Med. 2014;53(6):617-21.
36	Tada M	Department of Internal Medicine, Division of Medical Oncology and Respiratory Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Comparison of clinical management of young and elderly asthmatics by respiratory specialists and general practitioners.	J Asthma. 2015 Mar;52(2):162-9.
37	Karino F	Department of Internal Medicine, Division of Medical Oncology and Respiratory Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Nephrotoxicity induced by piperacillin-tazobactam in late elderly Japanese patients with nursing and healthcare associated pneumonia.	Biol Pharm Bull. 2014;37(12):1971-6.
38	Tsubata Y	Department of Internal Medicine, Division of Medical Oncology and Respiratory Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Comparative analysis of tumor angiogenesis and clinical features of 55 cases of pleomorphic carcinoma and adenocarcinoma of the lung.	Anticancer Res. 2015 Jan;35(1):389-94.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
39	Iwamoto S	Division of Medical Oncology & Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Association of EPAS1 gene rs4953354 polymorphism with susceptibility to lung adenocarcinoma in female Japanese non-smokers.	J Thorac Oncol. 2014 Nov;9(11):1709-13.
40	Ito T	Division of Nephrology, Faculty of Medicine, Shimane University	Study of mizoribine therapy in elderly patients with membranous nephropathy: comparison with patients not receiving mizoribine.	Int Urol Nephrol. 2015 Jan;47(1):131-5.
41	Endo A	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine	Contributors to newly developed coronary artery disease in patients with a previous history of percutaneous coronary intervention beyond the early phase of restenosis.	Intern Med. 2014;53(8):819-28. Epub 2014 Apr 15.
42	Sato H	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine	A case with myxoma of the left ventricular outflow tract.	Journal of Cardiology Cases 10 (2014) 13-15
43	Yamaguchi K	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine	Left atrial remodeling and recurrence of congestive heart failure in patients initially diagnosed with heart failure.	Echocardiography. 2014 Sep;31(8):936-40.
44	Wake M	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine	A case of hypertrophic obstructive cardiomyopathy and acquired von Willebrand syndrome: response to medical therapy.	J Echocardiogr (2014) 12:112-114
45	Pak M	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine.	A case of ascending aortic dissection and rupture caused by giant cell arteritis.	Int Heart J. 2014;55(6):555-9.
46	Sato H	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine	Visually confirmed post-systolic shortening during the recovery period in four cases of Takotsubo cardiomyopathy.	J Echocardiogr (2014) 12:159-161
47	Niihara H	Department of Dermatology, Shimane University Hospital	Simple and rapid detection of HLA-A*31:01 for prediction of carbamazepine-induced hypersensitivity using loop-mediated isothermal amplification method.	J Dermatol Sci. 2014 Apr;74(1):88-92.
48	Fukuda S	Department of Pediatrics, Shimane University School of Medicine	Survivin modulates genes with divergent molecular functions and regulates proliferation of hematopoietic stem cells through Evi-1.	Leukemia. 2015 Feb;29(2):433-40.
49	Mine J	Department of Pediatrics, Shimane University Faculty of Medicine	Clinical and genetic investigation of 17 Japanese patients with hyperekplexia.	Dev Med Child Neurol. 2015 Apr;57(4):372-7. Epub 2014 Oct 30.
50	Hirahara N	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Laparoscopic stomach-partitioning gastrojejunostomy with reduced-port techniques for unresectable distal gastric cancer.	J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2014 Mar;24(3):177-82.
51	Hirahara N	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	A novel technique to minimize deformation of the stomach in laparoscopic partial gastrectomy for intraluminal gastric GISTs.	J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2014 Oct;24(10):707-11.
52	Matsubara T	The Department of Digestive and General Surgery, Faculty of Medicine, Shimane University	The Number of Ezrin-Expressing Lymphocytes Correlating with Tumor Cell Apoptosis and Prognosis of Human Gastric Carcinoma	Open Journal of Gastroenterology, 2014, 4, 310-320

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
53	Hirahara N	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Easy and secure closure of petersen's defect after laparoscopic distal gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction.	J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2015 Jan;25(1):55-9.
54	Kawabata Y	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Safety and Feasibility of a Pancreaticoduodenectomy with Total Meso-Pancreatoduodenum Excision: Analysis in Various Periampullary Disorders.	Hepatogastroenterology. 2014 May;61(131):821-7.
55	Mishima T	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University	Dietary zinc supplementation to the donor improves insulin secretion after islet transplantation in chemically induced diabetic rats.	Pancreas. 2014 Mar;43(2):236-9.
56	Soichi Nakada	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	A case of giant urachal cyst in a neonate	J Ped Surg Case Reports 2 (2014) 505-507
57	Oda T	Division of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Department of Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Plasma proteomic changes during hypothermic and normothermic cardiopulmonary bypass in aortic surgeries.	Int J Mol Med. 2014 Oct;34(4):947-56.
58	Fujimoto Y	Department of the Pediatric Cardiac Surgery and the Cardiovascular Surgery, Shimane University	Senning operation for very low birth weight infant with transposition of the great arteries: one of the smallest cases in the world.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2014 Nov 13.
59	Kumahashi N	Department of Orthopaedics, Shimane University, School of Medicine	Effectiveness and limitations of reconstruction of the medial patellofemoral ligament using a titanium interference screw in single patellar and femoral bone tunnels	Asia-Pacific Journal of Sports Medicine, Arthroscopy, Rehabilitation and Technology 1
60	Kumahashi N	Department of Orthopedics, Shimane University, School of Medicine	Biomechanical comparison of the strength of adhesion of polymethylmethacrylate cement to zirconia ceramic and cobalt-chromium alloy components in a total knee arthroplasty.	J Orthop Sci. 2014 Nov;19(6):940-7.
61	Mitsui Y	Departments of Urology, Shimane University Faculty of Medicine	Extracellular activation of Wnt signaling through epigenetic dysregulation of Wnt inhibitory factor-1 (Wif-1) is associated with pathogenesis of renocortical tumor.	Oncotarget. 2014 Apr 30;5(8):2198-207.
62	Arichi N	Department of Urology, Shimane University	Case report of a ureteral obstruction by Candida albicans fungus balls detected by magnetic resonance imaging in kidney transplant recipient.	Exp Clin Transplant. 2014 Dec;12(6):559-61.
63	Mitsui Y	Department of Urology, Shimane University Faculty of Medicine	Choroidal and cutaneous metastasis from urothelial carcinoma of the bladder after radical cystectomy: a case report and literature review.	Case Rep Urol. 2014 Nov 6.
64	Anjiki H	Department of Urology, Shimane University School of Medicine,	TUMOR THROMBUS EXTENDING INTO THE INFERIOR VENA CAVA IN A CASE OF SMALL ANGIOMYOLIPOMA IN THE KIDNEY	The Nishinihon journal of urology 77(1), 22-28, 2015
65	Arichi N	Departments of Urology, Shimane University Faculty of Medicine	Versican is a potential therapeutic target in docetaxel-resistant prostate cancer.	Oncoscience. 2015 Mar 2;2(2):193-204.
66	Miyaoka T	Department of Psychiatry, Shimane University School of Medicine	Efficacy and safety of yokukansan in treatment-resistant schizophrenia: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial (a Positive and Negative Syndrome Scale, five-factor analysis).	Psychopharmacology(Berl). 2015 Jan;232(1):155-64.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
67	Hayashida Maiko	Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Shimane University	The relation between ADHD and ANS-CNS integration.	Open Journal of Psychiatry, 2014, 4, 39-42
68	Kawakami K	Department of Psychiatry, Shimane University Faculty of Medicine	The effects of aging on changes in regional cerebral blood flow in schizophrenia.	Neuropsychobiology. 2014;69(4):202-9.
69	Araki T	Department of Psychiatry, Shimane University Faculty of Medicine	The effects of combine treatment of memantine and donepezil on Alzheimer's disease patients and its relationship with cerebral blood flow in the prefrontal area.	Int J Geriatr Psychiatry. 2014 Sep;29(9):881-9.
70	Shinno H	Department of Psychiatry, Shimane University Faculty of Medicine	A decrease in N-acetylaspartate and an increase in myoinositol in the anterior cingulate gyrus are associated with behavioral and psychological symptoms in Alzheimer's disease.	J Neurol Sci. 2014 Aug 15;343(1-2):233-4.
71	Liaury K	Department of Psychiatry, Shimane University Faculty of Medicine	Minocycline improves recognition memory and attenuates microglial activation in Gunn rat: a possible hyperbilirubinemia-induced animal model of schizophrenia.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2014 Apr 3;50:184-90.
72	Miyaoka Tsuyoshi	Department of Psychiatry, Shimane University School of Medicine	Effect of Donepezil on Sleep and Activity in Alzheimer's Disease: Actigraphic and Polysomnographic Assessment.	J Alzheimers Dis Parkinsonism 2014, 4:5
73	Hashioka Sadayuki	Department of Psychiatry, Shimane University	Neuroleptics and Microglial Activation Associated with Neuropsychiatric Disorders.	J Neurol Disord Stroke 2(5): 1089. 2014 Oct
74	Furuya Motohide	Department of Psychiatry, Shimane University Faculty of Medicine	Yokukansan increases serum Brain-derived neurotrophic factor (BDNF) levels in Gunn rat.	Journal of Brain Science, December 30, 2014, Vol.44 34-41
75	Miyaoka Tsuyoshi	Department of Psychiatry, Shimane University School of Medicine	Efficacy and Safety of Sansoninto in Insomnia with Psychiatric Disorder: An Open-Label Study.	Altern Integr Med 2015, 4:1
76	Hashioka S	Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Shimane University	Interferon- $\gamma$ -induced neurotoxicity of human astrocytes.	CNS Neurol Disord Drug Targets. 2015 Jan;14(2):251-6.
77	Ishikawa M	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Therapy-related myelodysplastic syndrome and acute myeloid leukemia following chemotherapy (paclitaxel and carboplatin) and radiation therapy in ovarian cancer: a case report.	Eur J Gynaecol Oncol. 2014;35(4):443-8.
78	Nakayama K	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Microwave endometrial ablation for hypermenorrhea treatment: a new era in Japan.	Clin Exp Obstet Gynecol. 2014;41(2):119-20.
79	Nakayama K	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Microwave endometrial ablation at a frequency of 2.45 GHz for menorrhagia: analysis of treatment results at a single facility.	J Obstet Gynaecol Res. 2014 Jan;40(1):224-9.
80	Nakayama K	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	PI3KCA in ovarian clear cell carcinoma—reply.	Hum Pathol. 2014 Dec;45(12):2515.
81	Nakamura K	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Malignant female adnexal tumor of Wolffian origin (FATWO) positive for CD56: a possible diagnostic role for the biomarker.	Eur J Gynaecol Oncol. 2014;35(5):580-3.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
82	Rahman M	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Non-Hodgkin lymphoma of the female genital tract mimicking primary gynecological tumors: A single-center series of 3 cases.	Eur J Gynaecol Oncol. 2014 in press
83	Oride A	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Comparison of human menopausal gonadotropin stimulation with and without clomiphene for in-vitro fertilisation in poor-responders.	J Obstet Gynaecol. 2015 Feb;35(2):163-7.
84	Oride A	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Disappearance of a uterine arteriovenous malformation following long-term administration of oral norgestrel/ethynodiol.	J Obstet Gynaecol Res. 2014 Jun;40(6):1807-10.
85	Kanasaki H	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University, School of Medicine	Occurrence of pre- and postoperative stress urinary incontinence in 105 patients who underwent tension-free vaginal mesh surgery for pelvic organ prolapse: a retrospective study.	ISRN Obstet Gynecol. 2014 Feb 6;2014:643495.
86	Kanasaki H	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Role of pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide in modulating hypothalamus-pituitary neuroendocrine functions in mouse cell models.	J Neuroendocrinol. 2015 Jan;27(1):1-7.
87	Oride A	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Trichostatin A specifically stimulates gonadotropin FSH $\beta$ gene expression in gonadotroph L $\beta$ T2 cells.	Endocr J. 2014;61(4):335-42.
88	Sukhbaatar U	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Expression of gonadotropin-inhibitory hormone receptors in mouse pituitary gonadotroph L $\beta$ T2 cells and hypothalamic gonadotropin-releasing hormone-producing GT1-7 cells.	Endocr J. 2014;61(1):25-34.
89	Mijiddorj T	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	DS1, a delta subunit-containing GABA(A) receptor agonist, increases gonadotropin subunit gene expression in mouse pituitary gonadotrophs.	Biol Reprod. 2015 Feb;92(2):45.
90	Morikura I	Department of Otorhinolaryngology, Shimane University Faculty of Medicine	Japanese traditional medicine, Senn-kinn-naidaku-sann up-regulates Toll-like receptor 4 and reduces murine allergic rhinitis.	Rhinology. 2014 Sep;52(3):252-9.
91	Omura T	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	Correlations among various ocular parameters in clinically unilateral pseudoexfoliation syndrome.	Acta Ophthalmol. 2014 Aug;92(5):e412-3.
92	Sano I	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	Estimation of the melatonin suppression index through clear and yellow-tinted intraocular lenses.	Jpn J Ophthalmol. 2014 Jul;58(4):320-6.
93	Sugihara K	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	Case series of pseudoexfoliation material on intra-ocular lenses.	Acta Ophthalmol. 2015 Mar 1.
94	Tanito M	Dept of Ophthalmology, Shimane Univ. Faculty of Medicine,	A case report of progressive obstruction of Ex-PRESS miniature glaucoma shunt after transient flat anterior chamber and treatment using Nd:YAG laser.	BMC Ophthalmol. 2015 Jan 8;15:2.
95	Nakamura T	Department of Radiology, Shimane University Faculty of Medicine	The relation between apparent diffusion coefficient and clinical stage of clear-cell renal cell carcinoma.	Clin Imaging. 2015 Jan-Feb;39(1):72-5.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
96	Maruyama M	Department of Radiology, Shimane University Faculty of Medicine	Comparison of utility of tumor size and apparent diffusion coefficient for differentiation of low- and high-grade clear-cell renal cell carcinoma.	Acta Radiol. 2015 Feb;56(2):250-6.
97	Miyamoto T	Department of Anesthesiology, Shimane University Hospital	Spinal epidural hematoma associated with bolus injection during patient-controlled epidural analgesia	Int J Clin Anesthesiol 3(1):1076-1079, 2015.Jan
98	Nakatani T	Department of Palliative Care, Shimane University Faculty of Medicine	Retention of finger blood flow against postural change has the potential to become a new Indicator of sympathetic block in the upper limb - a preliminary study	Int J Anesthetic Anesthesiol 2015 2:2
99	Takashi Koike	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	A case of naso-orbital-ethmoid fracture following unexpected airbag deployment	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 27 (2015) 522-524
100	Kanno T	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Surgical treatment of comminuted mandibular fractures using a low-profile locking mandibular reconstruction plate system.	Ann Maxillofac Surg. 2014 Jul-Dec;4(2):144-9.
101	Karino M	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Applicability of preoperative nuclear morphometry to evaluating risk for cervical lymph node metastasis in oral squamous cell carcinoma.	PLoS One. 2014 Dec 30;9(12):e116452.
102	Notsu Y	Department of Laboratory Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Plasma arginine/ADMA ratio as a sensitive risk marker for atherosclerosis: Shimane CoHRE study.	Atherosclerosis. 2015 Mar;239(1):61-6.
103	Tabassum S	Department of Laboratory Medicine, Shimane University School of Medicine	A carboxylated Zn-phthalocyanine inhibits fibril formation of Alzheimer's amyloid $\beta$ peptide.	FEBS J. 2015 Feb;282(3):463-76.
104	Yamamoto Y	Department of Radiology, Shimane University Hospital	Evaluation of the difference-correction effect of the gamma camera systems used by easy Z-score Imaging System (eZIS) analysis.	Ann Nucl Med. 2014 Apr;28(3):263-75.
105	Miyahara Y	Department of Radiology, Shimane University Hospital	Usefulness of direct-conversion flat-panel detector system as a quality assurance tool for high-dose-rate 192Ir source.	J Appl Clin Med Phys. 2015 Jan 8;16(1):5068.
106	Hara K	Department of Anesthesiology, University Hospital, Shimane University School of Medicine	The role of electrical stimulation in ultrasound-guided subgluteal sciatic nerve block: a retrospective study on how response pattern and minimal evoked current affect the resultant blockade.	J Anesth. 2014 Aug;28(4):524-31.
107	Yamamoto H	Surgical Operation Center, University Hospital, Shimane University School of Medicine	A prospective, randomized comparison between single- and multiple-injection techniques for ultrasound-guided subgluteal sciatic nerve block.	Anesth Analg. 2014 Dec;119(6):1442-8.
108	S.Maniwa	Dept. of Rehabilitation, Shimane Univ.	Microstructural observation of collagen fibrils in the articular cartilage reveals a structural divergence depending on its local mechanical environment in human femoral head.	Osteoarthritis and Cartilage
109	Haruo Takeshita	Department of Legal Medicine Shimane University Faculty of Medicine,	World-wide distribution of four SNPs in X-ray and repair and cross-complementing group 1 (XRCC1)	Clinical and Translational Science (in press)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
110	Onigata K	Postgraduate Clinical Practice Center and Department of Pediatrics, Shimane Faculty of Medicine	Resistance to thyroid hormone.	Endocr Dev. 2014;26:118-29.
111	Tamaki H	Department of Immunology, Shimane University Faculty of Medicine. Department of Pharmacy, Shimane University Hospital.	Bcl-2 family inhibition sensitizes human prostate cancer cells to docetaxel and promotes unexpected apoptosis under caspase-9 inhibition.	Oncotarget. 2014 Nov 30;5(22):11399-412.
112	Kumakura S	Department of Medical Education and Research, Shimane University	Clinical characteristics and treatment outcomes of autoimmune-associated hemophagocytic syndrome in adults.	Arthritis Rheumatol. 2014 Aug;66(8):2297-307.
113	Kumakura S	Department of Medical Education and Research, Shimane University	Validity in the diagnosis of reactive hemophagocytic syndrome: comment on the article by Fardet et Al.	Arthritis Rheumatol. 2015 Feb;67(2):587-8.
114	Kasukabe T	Department of Medical Education and Research, Faculty of Medicine, Shimane University	Cotylenin A and arsenic trioxide cooperatively suppress cell proliferation and cell invasion activity in human breast cancer cells.	Int J Oncol. 2015 Feb;46(2):841-8.
115	Mizumoto K	Ohda General Medicine Education Center, Shimane University	Stage IV malignant melanoma successfully treated with OK-432 and percutaneous ethanol injection therapy after mass reduction surgery.	J Dermatol. 2014 Dec;41(12):1129-30.

計115

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容  委員会の責務、構成、審査・報告事項、審査方法、審査・報告の受付、会議の招集と議長 成立要件、審査手順、審査記録の作成、審査結果の通知、記録の保管 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容  審議事項、委員会の構成、報告事項、機密の保持 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容  ・ 本学における規則及び様式の改訂について  ・ 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の施行について	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念とした研修指導医数の豊富な臨床研修施設であり、卒前卒後のシームレスな医学教育を提供し、地域病院間ネットワークを有する基幹病院として新専門医制度に対応した後期研修プログラムを提供可能である。

プログラム作成には若手医師のキャリア形成支援を担当するしまね地域医療支援センター、各診療科、県内医療機関等が連携して、基本領域の専門医やサブスペシャリティーの専門医、あるいは同時に医学博士の学位取得を目指とした後期研修プログラムを作成している。また、新専門医制度に対応した体制整備を行った。

2 研修の実績

研修医の人数	66人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
杉本 利嗣	内分泌代謝内科	科長	36年	
鈴宮 淳司	腫瘍・血液内科	科長	31年	
木下 芳一	消化器内科	科長	35年	
佐藤 秀一	肝臓内科	科長	22年	
山口 修平	神経内科	科長	35年	
村川 洋子	膠原病内科	科長	29年	
磯部 威	呼吸器・化学療法内科	科長	29年	
伊藤 孝史	腎臓内科	科長	23年	
田邊 一明	循環器内科	科長	30年	
森田 栄伸	皮膚科	科長	33年	
山口 清次	小児科	科長	40年	
平原 典幸	消化器外科	科長	24年	
田島 義証	肝・胆・脾外科	科長	32年	
久守 孝司	小児外科	科長	28年	
板倉 正幸	乳腺・内分泌外科	科長	31年	
織田 祐二	心臓血管外科	科長	33年	
岸本 晃司	呼吸器外科	科長	26年	
内尾 祐司	整形外科	科長	29年	
秋山 恭彦	脳神経外科	科長	25年	
椎名 浩昭	泌尿器科	科長	30年	
堀口 淳	精神科神経科	科長	37年	
京 哲	産科	科長	29年	
京 哲	婦人科	科長	29年	
川内 秀之	耳鼻咽喉科	科長	32年	
大平 明弘	眼科	科長	37年	
北垣 一	放射線科	科長	30年	
猪俣 泰典	放射線治療科	科長	35年	
齊藤 洋司	麻酔科	科長	31年	
関根 净治	歯科口腔外科	科長	24年	

長井 篤	臨床検査科	科長	27年
丸山 理留敬	病理診断科	科長	33年
馬庭 壮吉	リハビリテーション科	科長	13年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	(2). 現状
管理責任者氏名	病院長 井川 幹夫	
管理担当者氏名	検査部長 長井 篤、放射線部長 北垣 一、手術部長 佐倉 伸一 薬剤部長 直良 浩司、看護部長 秦 美恵子、総務課長 林 勝幸 医療サービス課長 林 元之、会計課長 石井 邦彦	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療サービス課 手術部 薬剤部 検査部 放射線部 看護部	カルテ等の病歴資料は、入院・外来別に1患者1ファイル方式で管理し、エックス線写真は放射線部で患者毎に管理している。なお、平成18年9月の電子カルテ導入後、電子化されたものは病院情報管理システムのデータベース上で、患者IDをキーにして管理されている。  ○診療録を病院外へ持ち出す際の取扱い ・紙診療録は、医学部外に帶出しないこととして、閲覧者への遵守事項としている。 ・電子的に保存された診療録及び診療諸記録に係る情報の利用は、本院が定める利用要項に基づいた申請により、了承されたものとしており、原則学外へ持ち出すことを禁じている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部総務課	
	高度の医療の提供の実績	医学部医療サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部総務課 医学部会計課	
	高度の医療の研修の実績	医学部総務課	
	閲覧実績	医学部医療サービス課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医学部医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医学部医療サービス課及び薬剤部	
第規 一則 号第 に一 掲条 げの る十 体一 制第 の一 確項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医学部医療サービス課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医学部医療サービス課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医学部医療サービス課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係	医学部医療サービス課	

保各 の号 状及 況び 第九 条の 二 十第 一項	る安全の確保を目的と した改善の方策の状況		
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	医学部医療サ ービス課	
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	医学部医療サ ービス課	
	医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	医学部医療サ ービス課	
	当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	医学部医療サ ービス課	

病院の管理 及び運営に に関する諸記 録	規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 各 号 及 び 第 九 条 の 二 十三 第 一 項 第 一 号 に 掲 げ る 体 制 の 確	保管場所	管 理 方 法
		院内感染のための指 針の策定状況	医学部医療サ ービス課
		院内感染対策のため の委員会の開催状況	医学部医療サ ービス課
		従業者に対する院内 感染対策のための研修 の実施状況	医学部医療サ ービス課
		感染症の発生状況の 報告その他の院内感染 対策の推進を目的とし た改善の方策の実施状況	医学部医療サ ービス課
		医薬品の使用に係る 安全な管理のための責 任者の配置状況	医学部医療サ ービス課
		従業者に対する医薬 品の安全使用のための 研修の実施状況	医学部医療サ ービス課及び 薬剤部
		医薬品の安全使用の ための業務に関する手 順書の作成及び当該手 順書に基づく業務の実 施状況	医学部医療サ ービス課及び 薬剤部
		医薬品の安全使用の ために必要な情報の収集 その他の医薬品の安全使 用を目的とした改善の方 策の実施状況	医学部医療サ ービス課及び 薬剤部
		医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況	医学部医療サ ービス課
		従業者に対する医療 機器の安全使用のため の研修の実施状況	医学部医療サ ービス課及び MEセンター
		医療機器の保守点検	医学部医療サ ービス課

保 の 状 況	に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	サービス課及びMEセンター	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	医学部医療サービス課及びMEセンター	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	(2). 現状	
閲 覧 責 任 者 氏 名	医学部事務部長	後藤 郁則	
閲 覧 担 当 者 氏 名	医学部医療サービス課長	林 元之	
閲 覧 の 求 め に 応 じ る 場 所	附属病院 2 階カルテ閲覧室		
閲覧の手続の概要			
紙診療録の閲覧を希望する者は、診療録閲覧申込書に所要事項を記入し病歴担当者へ申し出た上で、カルテ閲覧室において閲覧する。閲覧後は、病歴担当者へ返却する。			

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	0 件
閲 覧 者 別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地 方 公 共 団 体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容： はじめに 「医療安全文化を維持向上させるために」<ol style="list-style-type: none"><li>1 安全管理に関する基本指針 島根大学医学部附属病院における安全管理に関する基本方針</li><li>2 医療事故防止の基本</li><li>3 医療事故防止に関する基本用語</li><li>4 インフォームド・コンセント</li><li>5 安全管理体制に関する組織</li><li>6 医療事故を未然に防止するための体制</li><li>7 医療事故等が発生した場合（緊急時）の対応</li><li>8 医療従事者と患者との間の情報の共有</li><li>9 患者からの相談への対応</li><li>10 職員研修</li><li>11 医療安全推進のために必要なその他の事項</li><li>12 関連マニュアル等</li></ol></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"><li>1 医療安全管理委員会 原則／毎月・1回 (平成26年度実績 12回) (平成27年度 (9/24現在 6回)</li><li>2 リスクマネジャー会議 原則／毎月・1回 (平成26年度実績 11回) (平成27年度 (9/24現在 5回)</li><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1 島根大学医学部附属病院医療安全管理委員会規則<ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療事故等の防止対策に関すること</li><li>2) 医療事故等の把握、分析、対処改善及び評価に関すること</li><li>3) 医療事故に係る患者及びその家族への対応に関すること</li><li>4) 安全管理のための職員の教育・研修に関すること</li><li>5) 医薬品の安全使用に関すること</li></ol></li></ol></li></ul>	

- |                     |
|---------------------|
| 6) 医療機器の安全使用に関すること  |
| 7) その他、医療安全管理に関すること |

2 島根大学医学部附属病院リスクマネジャーに関する要項

- 1) 安全確保のための点検の実施に関すること
- 2) 当該診療科等の構成員に対し、安全確保のための指導の実施に関すること
- 3) リスクマネジャー会議への参画に関すること
- 4) その他、医療事故防止に関すること

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況
--------------------------

年 11回
-------

- ・ 研修の主な内容：

(平成26年度)

- 1 「安全対策の落とし穴 ～思い込み「～のはず」に潜む罠」
- 2 「医療過誤をなくそう ～基礎とヨード造影剤を中心に～」  
「MR I 検査の安全管理」
- 3 コーチング流マネジメントによる医療人のやりがい作り  
～より良き医療安全とチーム医療の構築に向けて～
- 4 「新・医療事故調査制度 ーその考え方、我々が行うべきことー」
- 5 「放射線治療計画装置の品質マネージメント」
- 6 保育器
- 7 「血液浄化治療部における安全管理」
- 8 「補助循環の安全管理」
- 9 「外部放射線治療装置の安全管理」
- 10 「呼吸器のモードの内容が同じでも、呼称が異なる」
- 11 除細動器  
「DCについて」  
「ペースメーカー植込み患者さんに対するDC, AEDの使用方法」

(平成27年度)

- 12 「放射線治療計画装置の品質マネージメント」
- 13 ～みんなで考える大学病院医療事故～
- 14 「医療事故調査制度における原因分析、再発防止と関連する諸制度について」

※ 他の医薬品・医療機器安全使用研修及び新規・中途採用者の医療安全研修外

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 :           <ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成26年度医療安全管理室のGRMの増員に伴い、院内ラウンドの強化を実施</li> <li>2 リスクまねじめんと通信の発行 (毎月) (事例の内容を盛り込む)</li> <li>3 部署リスクマネジャーに対する研修会の実施 (レポート入力方法、閲覧方法他)</li> <li>4 分析ツールを用いた事例の分析と評価の件数を増加させる (インシデント発生時間帯別、当事者経験年齢別、与薬・転倒の細分析等)</li> </ol> </li> </ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ( 2名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ( 1名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 ( 2 ) 名 兼任 ( 8 ) 名</li> <li>・ 活動の主な内容 :           <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療に係る安全管理のための委員会の事務に関すること</li> <li>2 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うこととともに、必要な指導を行うこと</li> <li>3 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと</li> <li>4 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと</li> <li>5 医療安全管理に係る連絡調整に関すること</li> <li>6 医薬品の安全使用に係る連絡調整に関すること</li> <li>7 医療機器の安全使用に係る連絡調整に関すること</li> <li>8 安全管理に関する教育・研修に関すること</li> <li>9 医療事故調査制度に係る連絡調整に関すること</li> <li>10 その他医療安全対策の推進に関すること</li> </ol> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無

## (様式第6)

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・(無)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容 :</li> </ul> <p>1. 院内感染対策に関する基本的考え方      2. 院内感染対策のための委員会等の組織に関する基本方針      3. 院内感染のための従業者に対する研修に関する基本方針      4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針      5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針      6. 患者等に対する当該方針の閲覧に関する基本方針      7. 院内における感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容 :</li> </ul> <p>1. 感染対策室の運営、業務の企画に関すること      2. 感染の予防に関すること      3. 予防対策実施の指導に関すること      4. 感染予防の教育に関すること      5. 院内感染の原因調査、経過の追跡、整理及び分析等に関すること      6. その他感染対策に関すること</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul> <p>○全職員対象研修      「感染症と社会、生態学的視点から」      「結核～Emergency～」      「HIV診療の均てん化を目指して」      「もう一度振り返る血液培養」      ○新規採用者（中途採用者）の「医療安全及び感染対策」研修会      （新規採用者研修 1回、中途採用者研修 2回）      ○外部委託業者（清掃・廃棄物）の感染対策のための研修会「感染防止について」</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備</li> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 :</li> </ul> <p>○各部署をラウンドし状況の確認、情報収集の上指導する。      ○週1回開催する週ミーティング時、感染情報Webを展開して感染症状況、抗菌薬使用状況を分析し指導する。      ○必要時に関係者を招集し会議を開催する。発生の原因を分析・協議し、改善策の立案及び実施の指導並びに他部署への周知を図る。</p>	(有)・(無)

## (様式第6)

## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 49回
・ 研修の主な内容：別紙5、6  (院内全体の研修会)  1. 医員研修会：処方時の留意点、副作用報告について 2. 医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために」 3. 新人看護職静脈注射研修：薬剤の基礎知識と管理 4. フェンタニルレスキュー製剤の適正使用に関する研修会  (薬剤部内の研修会)  製品説明会等42回	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ( (有)・無 )  ・ 業務の主な内容：別紙7	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( (有)・無 )  ・ その他の改善の方策の主な内容：  (情報収集の方法)  1. 新規採用時：新規採用薬については、医薬品添付文書・インタビューフォーム・製品概要・各種パンフレット・関連文献（集）等の収集。また、医薬品添付文書・インタビューフォーム等が更新された場合は、最新情報を収集・更新している。 2. 隨時：緊急安全情報（厚生労働省「医薬品・医療機器等安全性情報」）の収集と院内提供をしている。  (情報の周知方法)  1. 緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報、DSU等は各診療科、中央・特殊診療施設、看護部等の院内関係部署へ配布している。 薬事専門部会結果（薬剤の採用および取り消し等）については、院内関係部署へ文書にて情報提供し、さらに新規採用薬については、効能・効果、用法・用量、副作用などの情報も併せて提供している。	

- 上記の緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報、薬時専門部会結果は院内情報ウェブ（薬剤部ホームページ）でも情報提供を行っている。
2. (財)日本医療機能評価機構からの共有すべき情報（医薬品関係）をリスクマネジヤー会議で周知している。

## 1)院内全体の研修会

月/日	研修内容
4/1	医員研修会:処方時の留意点、副作用報告について (29名)
5/19	医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために(第1回)」 (28名)
5/22	医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために(第2回)」 (46名)
12/11	新人看護職静脈注射研修:薬剤の基礎知識と管理
12/12	新人看護職静脈注射研修:薬剤の基礎知識と管理 (65名:2日間総数)
2/5	フェンタニルレスキュー製剤の適正使用に関する研修会 (アブストラル舌下錠、イーフェンバッカル錠を処方する医師の必須研修) (26名)
2/9	フェンタニルレスキュー製剤の適正使用に関する研修会 (アブストラル舌下錠、イーフェンバッカル錠を処方する医師の必須研修) (2名)

## 2)薬剤部内の研修会

月/日	研修内容
4/2	製品説明会:「アポカイン皮下注30mg」、「ノウリアスト錠20mg」、「硫酸Mg補正液1mEq/mL」 (29名)
4/7	製品説明会:「ホスレノール顆粒分包250mg/包」、「ユニタルク胸膜腔内注入用懸濁剤4g」 (29名)
4/16	製品説明会:「ウルティプロ吸入用カプセル」、「柴胡清肝湯」、「排膿散乃湯顆粒」 (27名)
4/23	製品説明会:「アセリオ静注1000mg」、「フルティフォーム50エゾール56吸入用・125エゾール56吸入用」 (24名)
5/8	製品説明会:「イルベタン錠100mg」、「イルトラ配合錠LD・HD」 (24名)
5/12	製品説明会:「オングリザ錠5mg」、「アラベル内用剤1.5g」 (28名)
5/23	製品説明会:「ソブリアードカプセル100mg」、「プリジスタ錠300mg」 (27名)
5/27	製品説明会:「オレンシア皮下注125mgシリンジ」、「バンコマイシン眼軟膏」 (31名)
6/3	製品説明会:「セルヤンツ錠5mg」、「プレベナー水性懸濁皮下注0.5mL」 (27名)
6/11	製品説明会:「ビソノテープ4mg」 (23名)
6/19	部内説明会:「経口抗がん薬の適正使用」 (24名)
7/1	製品説明会:「アブストラル舌下錠100 μg、200 μg」 (25名)
7/8	製品説明会:「ボルベン輸液6%」、「アレジオン点眼液0.05%」 (28名)
7/17	製品説明会:「カドサイラ点滴静注用100mg、160mg」、「バクトラミン注5mL/A」 (26名)
7/24	製品説明会:「スーグラ錠50mg」、「PA・ヨード点眼・洗眼液」 (22名)
7/30	製品説明会:「ボンビバ静注1mgシリンジ」、「ラベキュアパック400、800」、「ラベファインパック」 (24名)
8/7	製品説明会:「ロンサーフ配合錠T15/T20」 (26名)
8/12	部内説明会:「FOLFIRINOX療法」 (29名)
8/22	製品説明会:「献血グロベニン—I静注用2500mg」 (24名)
9/17	製品説明会:「サビーン点滴静注用500mg」 (26名)
9/25	製品説明会:「エフィエント錠3.75mg」、「ザルティア錠5mg」 (23名)
10/1	製品説明会:「アテディオ配合錠」、「ジオトリフ錠20mg」 (27名)
10/7	製品説明会:「イクスタンジカプセル40mg」、「ジプレキサ筋注用10mg」 (28名)
10/17	製品説明会:「フォシーガ錠5mg」、「ソリタ-T2号輸液500mL」 (24名)
10/23	製品説明会:「リオナ錠250mg」、「スープレン吸入麻酔液240mL」 (24名)

10/28	製品説明会:「アドセトリス点滴静注用50mg」、「ザクラス配合錠LD・HD」、「タケルダ配合錠」(23名)
11/6	製品説明会:「ザイザルシロップ0.05%」、「テノゼット錠300mg」(22名)
11/11	製品説明会:「アフルウェイ錠20mg」、「ルナベル配合錠ULD」(26名)
11/13	製品説明会:「リンデロン散0.1%」、「ハイゼントラ20%皮下注2g/10mL」(23名)
11/19	製品説明会:「サムスカ錠30mg」、「麻子仁丸エキス顆粒」(23名)
11/28	製品説明会:「オーソライズド・ジェネリックについて」(24名)
12/11	製品説明会:「シダトレンスギ花粉舌下液ボトル・パック」(23名)
1/9	製品説明会:「スンベプラカプセル100mg」、「ダクルインザ錠60mg」(18名)
1/21	製品説明会:「メプチンスイングヘラー10μg吸入100回」、「ルセフィ錠2.5mg、5mg」(27名)
1/28	製品説明会:「アレセンサカプセル20mg、40mg」、「ミレーナ52mg」(24名)
2/4	製品説明会:「ノボエイト静注用」、「ティー・エス・ワン配合OD錠T20、T25」(22名)
2/10	製品説明会:「外用剤褥瘡説明会」(18名)
2/20	製品説明会:「ミコブティンカプセル150mg」、「ビンダケルカプセル20mg」(23名)
2/24	製品説明会:「ドボベット軟膏15g」、「オプジー・ボ点滴静注20mg、100mg」(29名)
2/27	製品説明会:「ジエブタナ点滴静注60mg」、「スペニジン点滴静注用100mg」(20名)
3/4	製品説明会:「ザイティガ錠250mg」、「カナグル錠100mg」(28名)
3/24	製品説明会:「薬剤師介入事例DB説明会」(21名)

※研修会参加者名、内容および時間などを別途記録している。

## 1)院内全体の研修会

月/日	研修内容
4/3	医員研修会:処方時の留意点、副作用報告について (23名)
5/18	医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために(第1回)」 (54名)
5/19	医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために(第2回)」 (41名)

## 2)薬剤部内の研修会

月/日	研修内容
4/7	製品説明会:「ジーラスタ皮下注3.6mg」、「アグリリンカプセル0.5mg」 (37名)
4/13	製品説明会:「ジャカビ錠5mg」、「タブコム配合点眼液」 (34名)
4/23	製品説明会:「タペンタ錠25mg、50mg」、「プレアミン-P注射液」 (31名)
5/13	製品説明会:「グラナテック点眼液0.4%5mL」、「コンビビル配合錠」 (27名)
5/20	製品説明会:「ベルソムラ錠15mg、20mg」、「バニヘップカプセル150mg」 (35名)
5/27	製品説明会:「スタレボ配合錠L50、L100」、「クレナファイン爪外用液10%」 (36名)
6/10	製品説明会:「イノベロン錠100mg」、「タイサブリ点滴静注300mg」 (35名)
6/24	製品説明会:「アーゼラ点滴静注液100mg、1000mg」、「ルティナス臍錠100mg」 (30名)
7/1	製品説明会:「コセンティクス皮下注150mgシリンジ」、「ベピオゲル2.5%」 (29名)
7/8	製品説明会:「ベリナートP静注用500」、「コレアジン錠12.5mg」 (31名)
7/22	製品説明会:「レルベア100エリプタ、200エリプタ」、「アノーロエリプタ7吸入用」 (29名)
8/5	製品説明会:「ボシュリフ錠100mg」、「ウリアデック錠20mg」 (33名)
8/19	製品説明会:「タケキヤブ錠20mg」、「ホメピゾール点滴静注1.5g「タケダ」」 (34名)
8/31	SANOFI Webセミナー for Pharmacist:「脳卒中医からみて、薬剤師に知って欲しい抗血小板薬と抗凝固薬の知識」 (28名)
9/2	製品説明会:「ジャディアンス錠10mg、25mg」、「メキシチール点滴静注125mg」 (27名)
9/10	製品説明会:「オルドレブ点滴静注用150mg」、「トリーメク配合錠」 (29名)
9/16	製品説明会:「エビリファイ持続性水懸筋注入用400mgシリンジ」、「ポマリストカプセル2mg、3mg、4mg」 (28名)
9/18	製品説明会:「ペリプラストPコンビセット3mL」、「ソバルディ錠400mg」 (22名)

※研修会参加者名、内容および時間などを別途記録している。

(別紙 7)

医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に基づく業務の実施状況

(業務の主な内容)

1. 医薬品の採用

- ・ 医薬品の新規採用に際しては、用法・用量、禁忌、相互作用、副作用、保管・管理上の注意、使用上の注意に関する問題点を抽出し、問題点がある場合には対策を検討して当該医薬品を適正かつ安全に使用できるよう適切に対処する。

2. 医薬品の購入

- ・ 納入医薬品の破損の有無および外観異常を検査する。
- ・ 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬（第1種、第2種）、毒薬、劇薬、特定生物由来製品などの納入時には、関連する法規に基づき対応する。

3. 調剤室における医薬品の管理

- ・ 薬剤は関連する法規に基づく配置、管理を行うとともに、外観類似薬は配置場所を離す、同一銘柄が複数存在する場合は規格の色やデザインを変えて規格が複数あることが判るようにする、類似名称薬品には、「類似薬品名注意」等の表示を行って注意喚起するなどの対応をとる。

4. 病棟・各部門への医薬品の供給

- ・ 注射薬は原則、専用トレーに患者単位・1日単位の薬品を1手技ごとにセットし払い出す。
- ・ 配置品目・定数は、注射薬の使用量を基に年1回以上見直しを行う。
- ・ 特に安全管理が必要な医薬品（薬剤部ホームページ掲載：施錠管理の薬剤）のうち注射薬は、交付時に「所定の場所へ保管」と記載された専用の袋に入れて、直接手渡しあるいは施錠可能なカートまたはカートに付属の施錠可能なボックスに入れて交付する。

5. 外来患者への医薬品使用

- ・ 要注意薬（ハイリスク薬等）は、薬歴、病名や臨床検査値などを確認する。
- ・ 処方内容に疑義がある場合は、処方医への問い合わせを行い、必ず疑義が解決してから調剤を行う。
- ・ 疑義照会の記録として、処方せんに照会内容を赤字で記入し保管する。また、照会内容、変更内容、照会者を記載した疑義照会記録を保管する。
- ・ 疑義照会などで得られた調剤および服薬指導に必要な患者情報を病院情報システムに登録する。
- ・ 処方内容に変更が生じる場合は、医師が処方を修正する。
- ・ 糖尿病用薬等、薬学的指導が必要な薬剤を交付されている患者には、用法・用量、副作用等について説明を行う。

6. 病棟における医薬品の管理

- ・薬剤は関連する法規に基づく配置、管理を行う。
- ・規制医薬品および特に安全管理が必要な医薬品については、必要最小量の数量を定数配置する。
- ・原則として年1回以上、病棟医長、病棟担当薬剤師、看護師長による配置薬品の見直しを行う。
- ・危険薬を新たに配置する場合は、病棟担当薬剤師が「薬剤名ラベル」とともに「危険薬シール」を配置箇所に貼付し識別性を高める。
- ・救急カートは医療安全の観点から、原則として一般病棟においては品目、数量およびカート内の配置を統一する。

#### 7. 入院患者への医薬品の使用

- ・「持参薬確認業務マニュアル」に従って、薬剤師が原則すべての入院患者の持参薬について確認を行う。
- ・処方監査、調剤、患者説明等については「5. 外来患者への医薬品使用」に準じる。
- ・払い出し済みの内服薬、外用薬等の用法・用量の変更および中止の指示は、医師が指示をオーダ入力し、必要に応じて口頭でも伝達する。
- ・払い出し済みの注射薬を変更および中止する場合は、注射オーダの変更または中止の入力を行う。不要となった注射薬は、返品伝票と一緒に薬剤部へ返納する。必要に応じて指示オーダを変更し、その内容等を看護師に連絡する。
- ・処方医は、疑義照会により修正が必要となった場合は、電子カルテ上で処方修正を行い、指示せんを差し替える。必要に応じて指示オーダを変更し、その内容等を看護師に連絡する。
- ・使用する上で特に注意が必要な薬品は、調製時の注意、希釈、安定性などの情報を出し、注射薬に添付して情報提供を行う。

#### 8. 医薬品情報の収集・管理・提供

- ・医薬品・医療機器等安全性情報に該当する疑いのある副作用を発見した場合には、「医薬品安全性情報報告書」に記入し薬剤部長に送付する。厚生労働省に送付した副作用情報は薬事専門部会で評価し、対応を検討する。
- ・添付文書情報の重要な改訂や緊急安全性情報など緊急性を有する安全性情報を入手した場合は、薬剤部長とその重要度を協議して対応を決定する。院内各部門へ文書で通知するとともに、薬剤部ホームページへ掲載する。処方患者特定などの詳細な処方状況が必要な場合は、当該診療科へ情報を提供する。

#### 9. 手術・麻酔部門

#### 10. 集中治療部門

#### 11. 輸血・血液管理部門

#### 12. 血液透析部門

#### 13. 画像診断部門、臨床検査部門

#### 14. 歯科領域

- ・ 9～14 については「部署別安全管理マニュアル」部署別編ならびに各部門ホームページを参照する。

#### 15. 他施設との連携

- ・ 必要に応じて他の医療機関へ、退院時処方（現に使用する医薬品の名称、剤形、規格、用法・用量）の内容、一包化等の調剤上の工夫、服薬期間の管理が必要な医薬品の投与開始日、アレルギー歴、副作用歴、禁忌医薬品等を退院時服薬指導書やお薬手帳に記載する。
- ・ 院外処方せんに対する疑義照会および回答は、薬剤部を介してファックスを用いて行う。

#### 16. 事故発生時の対応

- ・ 緊急時にはドクターハリーコール（TEL 199）などにより対応する。
- ・ 事故発生を想定した対応手順の作成と定期的な見直しを行い職員へ周知する。
- ・ 「医療安全管理・危機管理対応ポケットマニュアル」を職員に配布し、定期的に見直す。
- ・ インシデント事例の収集・分析とそれに基づく事故防止対策の策定と実施を行う。
- ・ 事故発生時には、「医療事故防止対策マニュアル」、「医療安全管理・危機管理対応ポケットマニュアル」に従って対応する。

#### 17. 教育・研修

- ・ 医療安全、医薬品・医療機器に関する事故防止対策等の教育・研修を実施する。
- ・ 新任医師および看護師に対する医薬品の安全使用に関する研修会を実施する。

## (様式第6)

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有・無)
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 7回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人工呼吸器のモードについて（メーカーによりモードの呼称が異なるため再度の確認を含む）</li> <li>2 保育器の基礎（Q&amp;A方式）</li> <li>3 安全な人工心肺操作とは（小児体外循環を中心として）</li> <li>4 除細動器とは（院内のAEDの場所確認を含む）</li> <li>5 安全な血液浄化について</li> <li>6 放射線治療計画装置の品質マネージメント</li> <li>7 外部放射線治療装置の安全管理</li> </ol>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の策定 ( (有・無) )</li> <li>・ 保守点検の主な内容 :</li> </ul>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 始業点検、終業点検</li> <li>2 外部委託によるオーバーホール、院内でのオーバーホール</li> <li>3 外部委託による定期保守・緊急保守（故障・修理）</li> </ol>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( (有・無) )</li> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 :</li> </ul>	
<p style="margin-left: 2em;">(情報収集の方法)</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成19年3月30日医政指発第0330001号第4.3に基づき、製造販売業者等から不具合が生じた機器に関する情報を収集している。</li> <li>2 臨床工学技士の研修会及び講習会参加により種々情報を収集している。</li> <li>3 島根県出雲保健所から、人工呼吸器の医療安全対策に係る情報を収集している。</li> <li>4 インターネットによる医療事故情報にて情報を収集している。</li> </ol>	
<p style="margin-left: 2em;">(情報の周知方法)</p>	

- 1 上記により収集した情報を医療機器安全管理責任者から病院長に報告をすると共に、該当設置部署、会計課及びMEセンターに文書及び口頭にて周知している。
- 2 医療機器の安全使用のための研修会にて情報の周知を行っている。
- 3 医療機器管理システムによる情報発信（予定）
- 4 放射線機器に関する情報は部内メール、もしくは回覧にて周知している。

(様式第8)

島大医総第310-2号  
平成27年10月27日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人島根大学  
学長 服部 泰

島根大学医学部附属病院の標榜する診療科の整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 診療科名

1-1 標榜する診療科の区分

- 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科すべてを標榜  
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

1-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1内分泌代謝内科	2腫瘍・血液内科	3消化器内科
6膠原病内科	7呼吸器・化学療法内科	4肝臓内科
5神経内科		
6膠原病内科		
9循環器内科		
診療実績		

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1消化器外科	2肝・胆・脾外科	3小児外科
6呼吸器外科	4乳腺・内分泌外科	5心臓血管外科
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

- |          |       |       |         |        |          |       |
|----------|-------|-------|---------|--------|----------|-------|
| 1精神科     | 2小児科  | 3整形外科 | 4脳神経外科  | 5皮膚科   | 6泌尿器科    | 7産婦人科 |
| 8産科      | 9婦人科  | 10眼科  | 11耳鼻咽喉科 | 12放射線科 | 13放射線診断科 |       |
| 14放射線治療科 | 15麻酔科 | 16救急科 |         |        |          |       |

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1歯科口腔外科		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外で標榜している診療科名

- |        |        |             |
|--------|--------|-------------|
| 1臨床検査科 | 2病理診断科 | 3リハビリテーション科 |
|--------|--------|-------------|

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

### 3 不足している診療科の整備のための予定措置

今年度中に「救急科」を標榜する予定である。